

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC(Telemedicine Development Center of Asia) AQUA (Asia-Kyushu Advanced Medical Network)活動報告：第5巻

清水，周次
九州大学病院

中島，直樹
九州大学病院

<https://doi.org/10.15017/14313>

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告．5，2009-03．TEMDEC事務局
バージョン：
権利関係：

1. はじめに

今年度の第1の話題は、何と言っても昨年10月に「アジア遠隔医療開発センター」が病院中央診療施設の一つとして正式に開設されたことでしょう。英語名では **Telemedicine Development Center of Asia**、通称 **TEMDEC** (テムデック) となりました。これまではいろいろな部署からボランティア的に集まり、**AQUA** として働いていた活動はすべて **TEMDEC** へ引き継がれることとなります。この報告書も今年はそれら両方の名前で出すことにしました。人員構成はセンター長1名、副センター長1名、医師3名、情報通信系教員1名、技術職員3名、学外スタッフ1名、事務補佐1名の計11名ですが、事務補佐の野田さんを除きすべては兼任のスタッフです。また予定されているセンターの広さも僅かに **65m²** です。センターの設置自体には大きな意義がありますが、本来の活動拠点になるまでにはまだまだ体制を整えていく必要があると感じています。

さて今年度の活動を振り返ってみますと、また多くの **New** がありました。日本で新たに接続された施設は、京都大学、山口大学、東海大学、産業医科大学、藤田保健衛生大学、札幌東徳州会病院、J & J トレーニングセンターの7ヶ所を数え、海外でもインド、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、フランス、イタリアなどに新しい接続拠点ができた他、ベルギー、チェコ、スペインとも新しいネットワークが確立されました。また新しい試みとして九大医学部へ入ったばかりの1年生の講義の中で韓国からライブ手術を配信しましたが、実際の手術を見ることによる医療への動機づけと英語でコミュニケーションするという国際化の重要性を認識させることができたものとして大変嬉しく思っています。また以前より要望の強かった心臓カテーテルのライブデモンストレーションも、今年度初めて施行しました。さらに第2回アジア遠隔医療シンポジウムをソウルで開催し、ヒューマンネットワークもさらに充実したものになってきています。

今年度は10月にイスタンブールで開かれた第18回世界外科学消化器病学会議 (**IASGO**) において新しく遠隔医療グループが組織され、我々はそのチームをリードすることが決まりました。また来年度は世界消化器学会 (**WGO**) においてもその教育グループのメンバーとして世界各地のトレーニングセンターをネットワークで結ぶプロジェクトが正式にスタートする予定です。新たな接続地点としても、既に癌研有明病院、北海道大学、神戸大学、広島大学などが準備中であり、ノルウェー、ブラジル、ギリシャ、フィジー、南アフリカなどとも新規の接続を計画中です。

来年度はハイビジョンを見据えたさらに新しい技術の導入と共に、魅力的なコンテンツ作りに重点を置いた活動を目指します。

平成21年3月

九州大学病院 アジア遠隔医療開発センター

清水周次